

李登輝・台湾前総統書の石碑：市有地外に移設へ - - 日田・ひびきの郷 / 大分

「私的建立て好ましくない」

日田市大山町の温泉複合施設「豊後・大山ひびきの郷」に設置された李登輝・前台湾総統の書の石碑（縦140センチ、幅60センチ）について、三笠善八郎建立委員長（旧大山町長）は23日、ひびきの郷（市有地）外の私有地への移設方針を固めた。「建立て私的なものと分かった。市有地への建立て好ましくない」との市の要請を受け入れた。

三笠氏は旧大山町長だった04年11月、町民約20人と共に台湾の温泉観光地「烏来郷」を訪れ、大山町長と烏来郷長名で友好交流宣言に調印した。ひびきの郷を経営する第3セクター「おおやま夢工房」社長でもある三笠氏は親日家の李前総統に記念揮ごうを依頼、合併後の昨年6月「真実自然」の書が贈られてきた。

三笠氏らは建立委員会を設立し、寄付金など90万円で石碑を製作。今年3月、市に「ひびきの郷内への建立て」を申請、許可を得て4月9日、除幕式をした。

ところが地元から「調印は町議会議決を経ておらず、市有地への建立てはおかしい」との指摘があり、市は調査の結果「私的な訪問・調印」と判断。23日、移設を要請した。

三笠氏は「合併を控え正式な盟約調印でないのは承知の上。合併後の大山町振興と台湾観光客誘致を考え調印した。今後は中国人観光客の来園にも配慮し、李前総統に失礼ないように、しかるべき場所を選びたい」と話した。【榎原義則】

毎日新聞 2006年5月24日

Copyright 2005-2006 THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.
MSN毎日インタラクティブに掲載の記事・写真・図表などの無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。

(C) 2006 Microsoft